



金融特区初の社会的責任投資型ファンドについて説明する瀧澤信社長＝7月31日午後、県庁

名護市の金融特区内に今年3月設立された投資会社サステイナブル・インベスター(瀧澤信社長)は7月31日、同特区では初の社会的責任投資(SRI)型ファンド「エコパリューアップ・ファンド」の発売を同日開始したと発表した。同社によると、投資先企業に対して環境経営効率などさまざまな改善策を提案する国内初の「株主行動型SRIファンド」となる。SRIは環境に配慮して商品を製造販売しているかなど社会性を重視し投資する企業を選ぶ手法。

「エコ投信」を発売

ニース投資
社会的責任投資(SRI) 風力など環境に優しいエネルギー発電事業や自然保護活動に取り組むなど企業の社会貢献度を重視して投資企業を選ぶ手法。個人投資家から資金を集め専門家が株式や債券で運用する投資信託や企業年金などの分野で欧米や日本で導入され

サステイナブル・インベスターは株主行動型ファンドとして投資家と投資先企業の双方向コミュニケーションを重視。メールマガジンによる投資家への情報発信やブログで意見を集約し投資先企業に提案するなど、参加体験型のファンドを目指す。

同社は十一二十社の投資先企業を予定しており、ファンドの出資総額は最大三十億円を見込んでいる。公募方式で個人を対象にウェブサイトで販売するため、全国どこからで

サステイナブル・インベスター 初の株主行動型

も購入が可能。一口十万円で購入は原則として五年。ただし最長五年延長する場合もある。運用期間中の

の21%を成功報酬として同社が受け取る。この成功報酬のうち一割を上限に、投資家が投票で選んだ環境NGO(非政府組織)などに寄付する。

瀧澤社長は「環境と経済の両立を目指し、投資を通じて企業による持続可能な開発を支援していきたい」と強調。「さまざまな公的支援制度が整い、自然が豊かな沖縄の金融特区でファンドを展開することで相乗効果が生まれる」と期待を込めた。

(注) 記事では「エコ投信」と紹介されていますが、当ファンドは匿名組合によるファンドであり、投資信託ではありません。